

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和7年3月3日

公表: 令和7年3月10日

事業所名 ブロッサムジュニア仙台木町教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		時間帯や活動内容によっては集団療育質だけでは狭いと感じることがあるため、机上活動をするお子さんなどは個室で活動する等工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	5	1		パート・大学生アルバイトの配置も行っているが、送迎にスタッフがやっている時間帯などに職員の人数が足りないと感じる時がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	6		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			6	第三者による外部評価は行っていない為、今後必要に応じて検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	3		十分に掘り下げたアセスメントが行えるようスタッフ間で検討していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			6	現在、医療的ケアが必要なお子さんの利用がない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	1	4	今後、行えるよう検討していきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	2	児童発達支援センター等が主催する研修には参加出来ていないため、今後参加できるように調整していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			6	必要に応じて機会を設けていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	1	5	自立支援協議会への参加は出来ていないので、今後参加出来るよう調整していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	4	ペアレントトレーニングという名目で、家族支援は行えていないので、今後はスタッフ間で研修等を受けた上で実践できるようにしていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	4	今後、必要に応じて開催を検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1		
	35	個人情報に十分注意している	6			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている		1	5	地域でのイベントへの参加、近隣の商店などとの繋がりを持てるようにしていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6			

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	Blossamジュニア仙台木町教室		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数)
			19名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日	～	令和7年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)
			6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 保育士、児童指導員、専門職(言語聴覚士)の免許を持っているスタッフが複数在籍していて多方面の職種からの知識や経験が療育プログラム、支援に活かされていること。 	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの得意分野を活かせるよう、療育プログラムを組み立て、質の高い療育プログラムの提供を行っている。 日々の支援に関して、スタッフ間で話し合いをする時間を作り、様々な観点からアプローチ出来るようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援について、年間の研修以外にも必要に応じて随時本部スーパーバイザーによる研修を受けられるようにしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、本部主催のスタッフ研修(新規スタッフ向け、児発管ミーティング)、法定研修(感染症対策、虐待防止等)が充実していること。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間のスケジュールを見ながら、所属スタッフが研修を受けられるように勤務を調整している。 研修の報告書の作成については、所属スタッフが順番に報告書を作成している。また、報告書についてはいつでも閲覧出来るようにしながら、各委員会活動(感染症対策委員、虐待防止委員)に活かせるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本部の研修以外にも、外部の研修やセミナー等に参加出来るよう、自己啓発の時間を確保している。
3	<ul style="list-style-type: none"> 特定の領域にこだわらず5領域にならって様々な療育を提供している 大集団・小集団・個別療育を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容が週のなかで偏りが無いよう調整し、利用者が様々な活動を経験できるよう配慮している。 音楽の分野では、箏の師範の先生の指導に基づいて行っている 	<ul style="list-style-type: none"> お子様が見通しを持って、活動プログラムに取り組める視覚的なコミュニケーションツール(写真や絵カード、タイムタイマー等)を使用して、スケジュールを提示している。 スタッフ間で内容を精査し、次回の活動につながるようアレンジしている

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所との連携、情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所との連携や情報交換する時間をなかなか作ることが出来ない。 一部のスタッフ(管理者、児発管)しか、他事業所のスタッフと繋がりが無い。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の事業所への訪問や交流会に積極的に参加出来るように時間を作っていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> スタッフ間での特性に対する知識差 スキルアップ 	<ul style="list-style-type: none"> 研修などの時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> スキルアップ研修などを積極的に受講し、全スタッフへのフィードバックをすることでスタッフ間の知識の差を減らす 利用者の少ないAMの時間を活用しながら時間を確保できる様にしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々への支援内容の掘り下げ 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議の十分な時間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 各利用者への必要な支援内容に対して全スタッフが共通認識を持つ